

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糶2264番地1		
自己評価作成日	令和5年1月8日	評価結果確定日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い丘に緑豊かな四季を感じれる場所に「いきいきハウス日吉町」がある。活動の場はコロナ禍の情勢により引き続き限りがあるが、外出等の支援も少しずつ出来るようになってきており、その他事業所内での活動や、季節行事を通して、笑顔が絶えない時間を大切にしている。職員は理念とケア目標を共有・実践しており、利用者の状態変化を見逃さず日々連携が図れる体制を構築している。今後も「真心こもったサービス」と利用者の「楽しみの場」を拡大できる環境づくりに努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝、理念やケア目標などの意識づけの唱和が継続し、入居者と良好な関係を築き、入居者からの思わぬ声掛けや気遣いに、職員は優しく、思いやりのある真心こもったサービスで応えている。居間では、朝の体操で身体を動かし、レベルや嗜好に合わせ塗り絵や計算問題に果敢に取り組んだり、ソファでウトウトする等各々のペースで過ごす入居者の姿があるなど、穏やかな時間が流れている。運営推進委員等への定期的な運営報告に、質問や感染対策の労いなどが寄せられ、議事録は玄関口に公表するとともに、昨年からの開設しているホームページにも掲載している。コロナ禍で地域行事の参加はないが、公民館長や民生委員から励ましの言葉や窓越しの訪問を受け、避難訓練時には近隣の理解や協力を得ている。窓ガラス越しに見える壁に行事の写真を飾り、面会した家族からはホームだよりの写真とともに感謝され、日々地域に密着したサービスが展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念の唱和を行い共有と意識づけを図っている。事業所のケア目標は、連携を踏まえた内容としており、実践につながっている。	毎朝の唱和で理念などの意識づけが継続し、職員は入居者と良好な関係を築いている。入居者からの思わぬ声掛けや気遣いに、職員は優しく、思いやりのある真心こもったサービスで応え、穏やかな時間が流れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館長や民生委員との連絡を取り合い、交流を図っている。行事の参加はコロナ禍である為、控えているが、情勢を見ながら参加したいと考えている。	コロナ禍で地域行事の参加はないが、公民館長から励ましの言葉を頂いたり、民生委員が来訪された折には窓越しなどで状況を報告している。避難訓練時には毎回近隣の方の協力があるなど、地域交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民向けの予防教室やサロン活動は現在中止を余儀なくされているため、再開の目途が立てば受託したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議の実施は中止。委員からの意見の集約と事業所内の議題を併せて、行政及び関係者へ報告を行っている。	運営委員や家族に、定期的に運営状況を報告し、ヒヤリハットや研修報告に対する質問や感染対策に対する労いなどが寄せられている。議事録は玄関口に公表するとともに、昨年から開設しているホームページにも掲載している。	ホームページの開設で、運営推進委員はじめ、家族からのより多くの意見の表出を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センター・福祉事務所との連絡や訪問することで、相互の連携と協力が得られている。	市から電話等で感染対策の継続や避難訓練時の消防署からのアドバイスの質問を受け、地域包括支援センターからは居室情報の問い合わせやSOSネットワークの確認等があり、担当ケースワーカーとも連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として身体拘束を行わない介護を実施している。常に代替的な措置がないか考え、スピーチロック、ドラッグロックといった内容にも配慮し、身体拘束をしないケアに努めている。	法人や内部研修で、具体的な身体拘束の内容や言葉による拘束も理解している。玄関はオートロックだがリビングの掃き出し窓は入居者が自由に開閉できるため、常に目を配っている。センサーの使用はない。向精神薬ではなくケアで対応していく方針である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在行っているケアが虐待に繋がっていないか、または虐待に繋がる環境でないかを念頭に置き、ミーティングや研修を活用して振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する場を持ち、利用者家族やその関係者に対し、説明が出来るよう、パンフレットや資料を準備している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用はないが、重要事項説明書に制度等の関係機関を掲載し、いつでも相談に応じられるように研修をしているが、パンフレットなどの資料を準備する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を提示し、補足を加えながら、分かり易い説明を心掛けている。説明後に必ず納得、了承を得ており、変更の事項が生じた際には速やかに変更し、再度説明を行なう機会を設けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や来所が難しい御家族様には電話でその都度、状況報告を行い、要望や意見を受付できる体制を整えている。意見・要望を伺い、運営に活かすことを実践している。	家族に、人数を制限しガラス越しの面会をお願いしている。日頃の状況を職員が報告し、ガラス越しに見えるように壁に行事の写真を飾り、家族からはホームだよりの写真とともに感謝されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は連絡や面談等により、職員から直接意見や提案聞く機会を設けている。また、ミーティングや業務報告の際に、職員各位の意見を集約し、運営に活かしている。	毎月職員会議やミーティングなどで、意見を言い合える風通しの良い関係性が構築されている。購入の要望があったキッチン用品やお風呂の器具など揃えられ、掃除機や洗濯機が新しくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員から意見を聞き、対話を大切にしている。職員個々の努力や実績を把握し、職員がやりがいや向上心をもって働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用に関しては国籍・年齢・性別等の制限はしておらず仕事に対して真摯に向き合う方であれば無資格・未経験の方でも採用を積極的に行っている。	40代を中心に20代から60代までの男女の職員が勤務し、法人内移動はあるが、この2、3年退職者はなく、産休明けで復職した職員も子育てしながら勤務している。定期的な法人研修は勤務内に行われ、資格取得には研修参加の費用援助等のサポート体制も整い、希望休もとりにやすいなど、働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修やミーティング等を利用して、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。また、プライバシーや接遇についても考え、実践している。	法人研修に人権研修が組まれ、参加できない職員には伝達研修を行っている。日頃から管理者は、入居者やその家族、外来者などを含めた言葉遣いについて、慣れすぎず、丁寧すぎずと注意を促し、対応や人権教育に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に参加出来るよう、勤務シフトの調整や情報提供、受講支援を行い、キャリアアップに繋げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の介護サービス連絡協議会の参加やリモート会議、相互訪問により同業者との交流が図れている。また、文書や電話でのやりとりにて関係性が継続できている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りと家族からの情報提供にて不安・要望の把握に努めている。入居後も経過を観ながら心理面のサポートと会話や仕草の中から要望を探り、職員全体で情報共有し、ケアの提供を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より困りごとや要望を聞きとっている。入居後は日頃からのコミュニケーションを大切にし、事業所も含め家族と一緒に本人をサポートしていくことを伝え、安心していただけるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を把握し、必要としている支援を見極めている。また、ニーズが異なる場合は他サービスの情報提供や今後の支援の検討ができるよう対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個々の能力に応じ、洗濯物たたみやテーブル拭き等の家事や掲示物の作成等の役割を發揮していただいている。職員・利用者という関係ではなく一緒に考えていくことで関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策に留意しながらの面会等になるが、可能な限り家族と過ごせる時間を提供している。また、家族には手紙や写真を持参していただいたり、電話連絡等、関係が途切れない配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一番の馴染みのある家族との面会は一部制限があるが、かかりつけ医への継続した受診や顔馴染みの業者等の訪問により、関係性が途切れない支援に努めている。	現在も「感染してはいけなから」と家族も納得された窓越しの面会を継続し、理美容は感染対策上、器用な職員が継続している。面会時好みのボディシャンプーなど届けてもらう入居者もあり、関係継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係性を把握し、食事の席等の配置を考えている。時に会話は職員が取り持つようにし、円滑な人間関係が構築出来るよう、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて契約終了になった方及びその家族からの相談を受けている。退居時にも、相談に応じられる旨を伝えており、関係を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出が難しくなっている方もおられる為、日頃の様子や会話の内容から本人の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。また、記録等により職員間にて共有し、検討を行っている。	入居者と職員の関係が良好で、「部屋でおむつを替えてほしいみたい」などと気づいたことを、職員に耳打ちされる入居者もあり、職員は「ありがとう」とすぐに駆け付けている。時に語気の荒い言葉には、他の入居者の行動の意図を職員が代弁している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を本人及び家族から情報収集し、把握に努めている。入居後も随時、伺い情報の更新を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活リズムの中でどんな些細なことでも変化を見逃さず、日々の申し送り等を活用し自己能力や心身状況について把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向や思いを汲み取り、各関係者も含め意見とニーズを照らし合わせながら共有し、意見やアイデアが反映できる介護計画に努めている。	新しくフェイスシートやモニタリングシートなどを整備し、全職員で情報を共有し、介護計画の作成や見直しをしている。2年前、鏡に映る自分を弟と思い込み話かけていた入居者は、洗濯物たたみなどの役割を担うことで、鏡の前の洗面台を磨くまでになっている。	フェイスシートやアセスメントシートは印字の色を変えるなどの加筆で、入居者の変化を具体的に明記し、より具体的なケアを組み入れた計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や言動等、情報を見逃さず、ケース記録や申し送りノート等に記載を行っている。様子や状態の変化が分かるよう、職員間での共有を図り、介護計画の見直しに活かされている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に適した病院受診等、可能な限り家族の協力を得て、常に柔軟な方法や対応に心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事は現在の所、中止となっている為、参加はできていないが、収束に向けて今後参加できるようにしていきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続及び変更を本人及び家族の意向を伺いながら、決定している。受診支援を柔軟に行っており、緊急時にも柔軟かつ円滑に対応が出来る体制を構築している。	協力医療機関や専門科の受診は全て職員が同行している。臨時の受診は家族と連絡を取り合い、訪問歯科の利用も希望で行っている。系列の小規模多機能の看護師や訪問看護ステーションと連携し、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護職員との双方で利用者の健康管理や身体機能の変化に応じて、協働してケアにあたっている。24時間体制で相談や緊急時の対応指示の連絡が出来る体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、病棟看護師、MSWと必要な情報交換を行っており、治療方針や経過、事業所側での支援方法等を本人及び家族の意向を踏まえながら早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居するにあたり、重度化及び看取りが生じた場合の説明を行い、意向確認を行っている。情報を共有し、各関係者とチームでケアにあたるよう取り組んでいる。	看取り指針や意向確認書など整備し、職員配置変更等いつでも看取りできる体制を整えているが、現在まで看取りはない。101歳の入居者や在宅酸素療法の入居者、尿留置カテーテルを使用されている入居者もあるが、緊急時は病院に搬送との意向が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修などを通じて救命の基礎知識を習得している。日常のケアから観察のポイントを押さえ、急変や事故発生時に対する迅速な対応方法の周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施しており、実施の際には、近隣住民への声掛けや関係施設の職員の協力を得ている。また、避難確保計画を作成し、防災意識の高揚に繋げている。	消防署の立ち合いはないが、5月と12月に消防訓練を開催し、近隣には時節柄お知らせのみであったが、理解や協力を得ている。1か月の米や調味料、衛生材料などの備蓄はホーム内で、法人本部でその他の備蓄を行っている。	避難確保計画に合わせて、感染対策なども盛り込んだ事業継続計画の作成を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みのある関係性の中でも、職員は言葉遣いに注意しながらケアを行っている。本人の要望も含め、名前の呼び方等、堅苦しくすぎないことにも配慮している。	各居室の入口には名札の掲示はないが、居室の間違いはなく、入居当初、目印をつけるなどで自分の居室を認識している。ボール遊びで興奮しているときも「〇〇さん頑張って」などと、プライバシーを損ねない対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴し、居室やリビングでの過ごし方等、希望の表出ができるよう努めている。表出が困難な方でも行動の内容を紐解きながら希望が叶うよう、働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活習慣を守りながら、利用者個々人のペースを尊重した支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着る服を選んだり、希望する洋服を準備する等、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。また、散髪の時期を本人と相談し設定を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの役割の中で、食事の後片付け、テーブル拭き等、職員と一緒に取り組んでいる。また、パン作りを定期的に利用者全員で行っており、楽しみの一つとなっている。	忘年会や新年会の焼肉や寿司、鍋パーティ、お正月の中華オードブルや鏡開きのお汁粉等、行事に合わせて様々なメニューを提供したり、2日がかりのパン作りも好評で継続している。入居者が食を楽しむ姿を写真に撮り、記録として整理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、体重の増減や食事形態の変更等の確認を日々観察し、対応にあっている。栄養バランスの摂れた食事メニューを提供し、状態に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施。義歯の洗浄も細目に行ない、可能な限り自己にてブラッシングして載っている。状況に応じて訪問歯科医の管理指導を受けており、感染症や肺炎予防にも繋がっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンに合わせて、トイレ誘導介助を主体にオムツを使用しないアプローチを実行している。殆どの方がトイレ排泄を継続できており、排泄の失敗も減ってきている。	排泄パターンを理解して夜もトイレで排泄介助をしている。オムツ介助の方もトイレに座ってもらったり、声掛けや誘導が必要な入居者もある。尿路感染を繰り返していた入居者は、尿カテーテルの留置で発熱がなくなっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動量の把握、消化の良い食物や食物繊維を多く含んだものの提供を心掛け、便秘の予防に取り組んでいる。排便困難者に対しては主治医と相談しながら自然排便が出来るよう対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態や本人の予定に合わせて、入浴日は事業所側で決定しているが、利用者個人のペースで入浴を行っている。また、入浴剤の使用や音楽を流す等してリラクゼーションに努めている。	週3回を目処に、車椅子使用の入居者も職員が一人で介助している。浴室は介助しやすい広さで、脱衣室にもエアコンが設置され、入居者毎にボディシャンプーなどが棚の上に整理され、入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活にメリハリを持って戴きながら、個々に合わせて休息する時間を設けている。夜間に関しては安眠が出来るよう、心地よい照度や室温、音への配慮も行い、リラックスできる環境形成に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や薬を服用するに至った経緯、副作用等を職員一人一人が把握できるよう周知にしている。また、服薬セット・服薬前後チェックは厳重に行い、変更があった際にはその都度、申し送りを徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭き、体操係の個々に応じた役割があり、職員と一緒に楽しみや気分転換が共有できるよう、努めている。また嗜好品の購入代行等を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や園芸の手入れ等、職員と一緒に楽しみが継続できるよう支援している。外出行事も少しずつ行えるようになり、あじさい見学やドライブ等を行っており、来年度には買い物支援の再開、外食行事の企画も考えている。	調査日は雪模様で午後の散歩はできなかったが、日頃はホーム周囲の散歩やプランターに植えた野菜の苗に水やりをしたり、アジサイ等花見や道の駅までドライブする等、出来る事を行っている。今後の感染状況を踏まえ、温かなれば入居者が楽しめる買い物や外食等を企画する予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者はいないが、物品の購入や支払いがある際は、可能な限り本人の手から支払いが出来るよう、支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から手紙や電話のやり取りが行えるよう、関係の継続に努めている。(職員の代筆、代電含む)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースで過ごす方が多い為、テレビの音量の調節や室温の調整等、利用者が不快にならないよう配慮している。共有部分には季節感を感じていただける装飾や扇風機、ファンヒーター等を設置し、居心地に配慮している。	壁には楽しかった忘年会や紫陽花見物など行事のスナップ写真や1月の貼り絵作品が飾られ、恒例の書初めも掲示されている。空調が管理され、まな板の音が響く居間では、朝の体操で身体を動かし、レベルや嗜好に合わせ塗り絵や計算問題に果敢に取り組んだり、ソファでウトウトする等各々のペースで過ごす入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前や食事席、ソファ等、思い思いに過ごせる場所を設定し、配慮を行なっている。仲の良い利用者同士の談話やゆとりを持って過ごせる時間を大切に、時に職員が間を取り持つなど工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みのある家具や調度品を持ち込んで載けるようにしている。本人の要望を聴きながら家族との写真や日用品等を居室に配置することで心地良いと感じて載けるよう、支援している。	ベットと家具が備え付けられ、各々自宅から使い慣れた家具を持ち込んでいる。壁面には誕生日会の写真入り壁画や賞状、家族写真が飾られ、清掃が行き届き心地良い空間となっている。居室入り口には表札はないが、居室間違いはない。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は車椅子・歩行器等、導線のスペースが確保されており、廊下には手摺が配置されている。利用者の方々の能力を理解し、安全かつ個々に合せた使用を行っている。		